

進級

(1)進級要件

「第3年次への進級に関する内規」(P.88参照)に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。

2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した者は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。

1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。

なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級します。ただし、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2)進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中で3年次へ進級することはできません。

進級可能者は3月中旬にお知らせします。

(3)進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

卒業

(1)卒業要件

大学を卒業するためには、以下の2点を満たさなければなりません。

①通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。

②学則第8条に定められている所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者(詳細はP.40以降参照)。

注)4年次修了時点で上記の条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2)学位の授与

卒業要件を充足した者は、学則第37条により学士(商学)の学位が授与されます。

(3)卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

いずれの場合も要件を充足した場合は卒業となります。

①3月卒業

4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、3月上旬に保証人宛に通知します。

②9月卒業

4年次春学期時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。

卒業可能者は、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4)卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。所定の用紙を履修登録期間までに教務課または名城公園キャンパス事務室へ提出してください。

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	必修16単位 修得	商学入門②			
		経済学A②・経済学B② 流通論A②・流通論B②、情報リテラシー A②・情報リテラシー B② 経済原論A②・経済原論B②、会計学A②・会計学B②			
基幹科目	16単位以上修得 (選択コース選択の 特定科目から8単位 以上修得 * 専門教育科目一覧 参照(P.42・43))	簿記 I A②・簿記 I B②	マーケティング論A②・マーケティング論B②、小売経営論A②・小売経営論B②、 国際ビジネス論A②・国際ビジネス論B②、経営学A②・経営学B②、金融論A②・金融論B②、 財務会計論A②・財務会計論B②、保険論A②・保険論B②		
		4単位以上 修得	情報社会論②、情報倫理②、eコマース論②、 流通情報システム論②、データ分析 I ②・データ分析 II ②		
応用科目	I類 DMコースは 12単位以上 修得		消費者行動論②	流通政策A②・流通政策B②、商品論A②・商品論B②、 サービス・マーケティング論②、マーケティング・リサーチ論②、 ビジネス・リサーチ②、広告論②、国際商務論A②・国際商務論B②、 貿易政策A②・貿易政策B②、経営管理論②、経営組織論②	
	II類 AFコースは 12単位以上 修得	簿記 II A②・簿記 II B②	上級簿記A②・上級簿記B②、原価会計論A②・原価会計論B②、銀行論②、証券論A②・証券論B②	管理会計論A②・管理会計論B②、国際会計論A②・国際会計論B② 税務会計論A②・税務会計論B②、会計監査論②、 財務諸表分析②、生命保険論②、損害保険論② 国際金融論A②・国際金融論B②、ビジネス・ファイナンス論②	
	III類 BIコースは 12単位以上 修得		コンピュータシステム論②、データ構造とアルゴリズム②、Webデザイン②、マルチメディア論②、 プログラミング入門②、プログラミング I ②、情報と職業②	情報ネットワーク論②、情報セキュリティ②、ソフトウェア開発論②、 コンピュータグラフィックス②、ユビキタスシステム論②、 データベース I ②・データベース II ②、プログラミング II ②、 プログラミング III ②	
	IV類		商学特論 I ②・II ②・VI ②・VII ②・VIII ②	商学特論 III ②・IV ②・V ②・IX ②・X ②、経営者講座②	
			企業実習(インターンシップ)②		
			資格取得講座 I ②・II ②・III ②・IV ②		
	V類 4単位以上 修得		ビジネス英語 I A②・I B②、ビジネス英語 II A②・II B②、外国書講読A②・B② Business Conversation A②・B②	貿易英語②	
VI類			日本経済論A②・B②、財政学A②・B②、イノベーション論② ベンチャー・ビジネス論②、ロジスティクス論②、中小企業経営論②		
VII類 4単位以上 修得		中部経済論②、公共経営論②、地域ビジネス論②、エリア・リサーチ I ②・II ②・III ② 会社法②、民法②、税法②			
演習科目	10単位以上 修得	演習 I ②	演習 II ④	演習 III ④、卒業論文④	
			応用商学 I ②・II ②・III ②・IV ②・V ②・VI ②		
③ 14単位		基礎科目、基幹科目、応用科目(I, II, III, V, VI, VII類)、演習科目の中で必要最低単位数を超えた単位+応用科目(IV類)			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注3) e. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.10を参照してください。
(注2) 「人文系」「社会系」「自然系」「主題系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位は④→③の順で算入される。
(注3) 他学部・他学科科目で修得した24単位の内、16単位までは◎に、残りの8単位は③にそれぞれ算入される。
他学部・他学科科目のうち地域連携科目の詳細についてはP.77-78を参照してください。

専門教育科目一覧

商学科(2013年度以降入学生適用)

分野	授業科目名	単位	開講学年	DMコース	AFコース	BIコース	卒業要件
基礎科目	商学入門	2	1				必修16単位修得
	経済学A	2	1~4				
	経済学B	2	1~4				
	流通論A	2	1~4	●	●	●	
	流通論B	2	1~4	●	●	●	
	経済原論A	2	2~4	●	●	●	
	経済原論B	2	2~4	●	●	●	
	会計学A	2	2~4	●	●	●	
	会計学B	2	2~4	●	●	●	
	情報リテラシー A	2	1~4	●	●	●	
情報リテラシー B	2	1~4	●	●	●		
基礎科目 幹科目	マーケティング論A	2	2~4	○		○	16単位以上修得 (選択コースの特定科目○印8単位を含む)
	マーケティング論B	2	2~4	○		○	
	小売経営論A	2	2~4	○			
	小売経営論B	2	2~4	○			
	国際ビジネス論A	2	2~4	○			
	国際ビジネス論B	2	2~4	○			
	経営学A	2	2~4	○	○		
	経営学B	2	2~4	○	○		
	簿記 I A	2	1~4		○	○	
	簿記 I B	2	1~4		○	○	
	金融論A	2	2~4		○		
	金融論B	2	2~4		○		
	財務会計論A	2	3・4		○		
	財務会計論B	2	3・4		○		
	保険論A	2	2~4		○		
	保険論B	2	2~4		○		
	情報社会論	2	2~4			○	
	情報倫理	2	2~4			○	
eコマース論	2	2~4		○	○		
流通情報システム論	2	2~4		○	○		
データ分析 I	2	2~4			○		
データ分析 II	2	2~4			○		

基礎科目から演習科目の中で76単位以上修得

分野	授業科目名	単位	開講学年	DMコース	AFコース	BIコース	卒業要件		
応用科目 I 類	流通政策A	2	3・4				DMコースは12単位以上修得		
	流通政策B	2	3・4						
	商品論A	2	3・4						
	商品論B	2	3・4						
	消費者行動論	2	2~4						
	サービス・マーケティング論	2	3・4						
	マーケティング・リサーチ論	2	3・4						
	ビジネス・リサーチ	2	3・4						
	広告論	2	3・4						
	国際商務論A	2	3・4						
	国際商務論B	2	3・4						
	国際マーケティング論A	2	3・4						
	国際マーケティング論B	2	3・4						
	貿易政策A	2	3・4						
	貿易政策B	2	3・4						
	経営管理論	2	3・4						
	経営組織論	2	3・4						
	応用科目 II 類	簿記 II A	2	1~4					AFコースは12単位以上修得
		簿記 II B	2	1~4					
		上級簿記A	4	2~4					
上級簿記B		4	2~4						
原価会計論A		2	2~4						
原価会計論B		2	2~4						
管理会計論A		2	3・4						
管理会計論B		2	3・4						
国際会計論A		2	3・4						
国際会計論B		2	3・4						
税務会計論A		2	3・4						
税務会計論B		2	3・4						
会計監査論		2	3・4						
財務諸表分析		2	3・4						
銀行論		2	2~4						
証券論A		2	2~4						
証券論B		2	2~4						
生命保険論		2	3・4						
損害保険論	2	3・4							
国際金融論A	2	3・4							
国際金融論B	2	3・4							
ビジネス・ファイナンス論	2	3・4							

基礎科目から演習科目の中で76単位以上修得

分野	授業科目名	単位	開講学年	DM コース	AF コース	BI コース	卒業要件
応用科目Ⅲ類	コンピュータシステム論	2	2~4				B コースは12単位以上修得
	情報ネットワーク論	2	3・4				
	情報セキュリティ	2	3・4				
	データ構造とアルゴリズム	2	2~4				
	ソフトウェア開発論	2	3・4				
	Webデザイン	2	2~4				
	マルチメディア論	2	2~4				
	コンピュータグラフィックス	2	3・4				
	ユビキタスシステム論	2	3・4				
	データベースⅠ	2	3・4				
	データベースⅡ	2	3・4				
	プログラミング入門	2	2~4				
	プログラミングⅠ	2	2~4				
プログラミングⅡ	2	3・4					
プログラミングⅢ	2	3・4					
情報と職業	2	2~4					
応用科目Ⅳ類	商学特論Ⅰ	2	2~4				基礎科目から演習科目の中で76単位以上修得
	商学特論Ⅱ	2	2~4				
	商学特論Ⅲ	2	3・4				
	商学特論Ⅳ	2	3・4				
	商学特論Ⅴ	2	3・4				
	商学特論Ⅵ	2	2~4				
	商学特論Ⅶ	2	2~4				
	商学特論Ⅷ	2	2~4				
	商学特論Ⅸ	2	3・4				
	商学特論Ⅹ	2	3・4				
	経営者講座	2	3・4				
	企業実習(インターンシップ)	2	2・3				
	資格取得講座Ⅰ	2	1~4				
資格取得講座Ⅱ	2	1~4					
資格取得講座Ⅲ	2	1~4					
資格取得講座Ⅳ	2	1~4					

分野	授業科目名	単位	開講学年	DM コース	AF コース	BI コース	卒業要件	
応用科目Ⅴ類	ビジネス英語ⅠA	2	2~4				4 単位以上修得	
	ビジネス英語ⅠB	2	2~4					
	ビジネス英語ⅡA	2	2~4					
	ビジネス英語ⅡB	2	2~4					
	外国書講読A	2	2~4					
	外国書講読B	2	2~4					
	貿易英語	2	3・4					
	Business Conversation A	2	2~4					
	Business Conversation B	2	2~4					
	日本経済論A	2	3・4					
応用科目Ⅵ類	日本経済論B	2	3・4				基礎科目から演習科目の中で76単位以上修得	
	財政学A	2	3・4					
	財政学B	2	3・4					
	イノベーション論	2	3・4					
	ベンチャー・ビジネス論	2	3・4					
	ロジスティクス論	2	3・4					
	中小企業経営論	2	3・4					
	中部経済論	2	2~4					
	公共経営論	2	2~4					
	地域ビジネス論	2	2~4					
応用科目Ⅶ類	エリア・リサーチⅠ	2	2~4				4 単位以上修得	
	エリア・リサーチⅡ	2	2~4					
	エリア・リサーチⅢ	2	2~4					
	会社法	2	2~4					
	民法	2	2~4					
	税法	2	2~4					
	応用商学Ⅰ	2	3・4					10 単位以上修得
	応用商学Ⅱ	2	3・4					
	応用商学Ⅲ	2	3・4					
	応用商学Ⅳ	2	3・4					
応用商学Ⅴ	2	3・4						
応用商学Ⅵ	2	3・4						
演習Ⅰ	2	2						
演習Ⅱ	4	3						
演習Ⅲ	4	4						
卒業論文	4	4						

●・・・必修科目
○・・・コース選択科目

カリキュラム概要

ビジネス情報学科

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(36単位)		1年次	2年次	3年次	4年次	
	内訳	分野合計					
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・宗教学Ⅱ②				
教養基礎科目		A 16単位 (注2)	教養セミナーⅠ①・Ⅱ①		教養セミナーⅢ①・Ⅳ①		
	人文系		4単位	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②			
主題科目	人間と社会	4単位	総合科目Ⅰ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅱ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅲ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅰ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅱ-I②・Ⅱ②				
	文化と社会		特定主題科目Ⅲ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅳ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅴ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅵ-I②・Ⅱ②				
	生活と情報		総合科目Ⅳ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅴ-I②・Ⅱ②、総合科目Ⅵ-I②・Ⅱ②、特定主題科目Ⅶ-I②・Ⅱ②				
外国語科目(注1)	第1外国語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①				
	第2外国語	独・中・仏・韓国語の中から2単位	10単位	ドイツ語Ⅰ①・Ⅱ①、中国語Ⅰ①・Ⅱ①、フランス語Ⅰ①・Ⅱ①、韓国語Ⅰ①・Ⅱ①			
	文化事情	独・中・仏・韓国文化事情の中から2単位		ドイツ文化事情②、中国文化事情②、フランス文化事情②、韓国文化事情②			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・スポーツ科学Ⅱ①				
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①、健康総合論②				
外国語科目	エレクトティブ	◎へ算入	【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲa(読解)①・Ⅲa(読解)①、ドイツ語Ⅲb(表現)①・Ⅲb(表現)①、ドイツ語Ⅲc(総合)①・Ⅲc(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲa(読解)①・Ⅲa(読解)①、中国語Ⅲb(表現)①・Ⅲb(表現)①、中国語Ⅲc(総合)①・Ⅲc(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲa(読解)①・Ⅲa(読解)①、フランス語Ⅲb(表現)①・Ⅲb(表現)①、フランス語Ⅲc(総合)①・Ⅲc(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲa(読解)①・Ⅲa(読解)①、韓国語Ⅲb(表現)①・Ⅲb(表現)①、韓国語Ⅲc(総合)①・Ⅲc(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①				
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
自由選択科目	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン②				

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次	
第一部	基礎科目1	8科目 16単位 修得	商学入門A②・商学入門B②、経済原論A②、流通論A②・流通論B②			
	基礎科目2	必修を含め 8単位以上 修得	情報処理概論④ 簿記ⅠA②・簿記ⅠB② マーケティング論A②・B②、金融論A②・B②			
第二部	基本科目	必修を含め 8単位以上 修得	経済史A②・経済史B② ビジネス情報論A② ビジネス情報論B②、経済政策A②・経済政策B② 産業政策②			
第三部	応用科目1	必修を含め 12単位以上 修得	情報処理ⅠA② 国際経済論A②・B②、日本経済論A②・B②、マクロ経済学②、ミクロ経済学②、情報システム②、 情報処理ⅠB②、情報処理ⅡA②、プログラミングⅠA②・ⅠB②、ビジネス特論Ⅰ②、 コミュニケーション英語A②・B② 外国語講読A②・B② 経済地理A②・B②、財政学A②・B②、金融政策②、国際金融論A②・B②、 ビジネス・ファイナンス論②、ビジネス統計学A②・B②、情報ネットワーク論②、 ビジネス・経済シミュレーションA②・B②、情報処理ⅡB②、プログラミングⅡ A②・ⅡB②、ビジネス特論Ⅱ②・Ⅲ②、Business Conversation A②・B②			
	応用科目2		資格取得講座② 会社法②、税法② 経営者講座② 企業実習(インターンシップ)② (商学科基本科目および応用科目Ⅰ(Ⅰ～Ⅲ類)) 簿記ⅡA②・ⅡB② (注3) (商学科基本科目および応用科目Ⅰ(Ⅰ～Ⅲ類)) 小売経営論A②・B②、保険論A②・B②、消費者行動論②、国際ビジネス論A②・B②、経営戦略論②、上級 簿記A④・B④、原価会計論A②・B②、銀行論②、証券論A②・B②、商学特論Ⅰ②、商学特論Ⅱ② (注3) (商学科基本科目および応用科目Ⅰ(Ⅰ～Ⅲ類)) 国際マーケティング論A②・B②、財務会計論A②・B②、流通政策A②・B②、 商品論A②・B②、サービス・マーケティング②、マーケティング・リサーチ論②、 広告論②、国際商務論A②・B②、貿易政策A②・B②、経営管理論②、 経営組織論②、管理会計論A②・B②、国際会計論A②・B②、税務会計論A②・B②、 会計監査論②、財務諸表分析②、生命保険論②、損害保険論②、金融政策②、 商学特論Ⅲ②、Ⅳ②・Ⅴ②・Ⅵ②・Ⅶ②・Ⅷ② (注3)			
第四部	演習科目	6単位以上 修得	応用商学Ⅰ(金融)、Ⅱ(国際)、Ⅲ(経済・ビジネス)、Ⅳ(総合)各② 演習Ⅰ② 演習Ⅱ④ 演習Ⅲ④、卒業論文④			
◎ 26単位		基礎科目2、基本科目、応用科目1、演習科目の中で、必要最低単位数を超えた単位+応用科目2				

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「健康総合論」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注4) d. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	--

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.10を参照してください。
 (注2) 「人文系」「社会系」「自然系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位は④→③の順で算入されます。
 (注3) 商学科開講の基本科目および応用科目Ⅰ(Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ類)で修得した単位は応用科目2に算入されます。
 (注4) 他学部・他学科科目で修得した24単位の内、16単位までは◎に、残りの8単位は③にそれぞれ算入されます。

授業科目の概要

教養教育科目

商学部共通

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

教養セミナー「学問の発見」

高校までの受動的な学習形態を能動的な形へ転換させ、大学での基本的な学習姿勢を教授するための科目です。本授業では、「学問の発見」という共通のテーマのもとに、担当教員が工夫を凝らした、様々な授業が用意されています。皆さんの興味・関心に合わせて授業が選択できるようになっており、レポートの書き方など、スタディスキルも扱いながら、少人数のセミナー形式で授業が行われます。また、本授業の担当者は、1、2年次のアドバイザーとなり、授業以外にも、履修指導、その他、学生生活全般において皆さんをサポートします。

教養基幹科目

教養基幹科目は教養セミナー「学問の発見」と人文系・社会系・自然系・主題系^{注)}の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成すると共に、教養セミナー「学問の発見」での教員との触れ合いを通して、新入生が大学に溶け込みやすいように工夫しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

○人文系・社会系・自然系・主題系科目は各分野で4単位ずつ、さらに教養基幹科目全体の中から(教養セミナー含む)4単位、最低でも合計で20単位を修得する必要があります。

注) 2012年度以前入学生については、以下のとおりとします。

教養基幹科目主題系の各科目は、主題科目として開講します。ただし、「健康の科学」は健康総合科学科目の「健康総合論」として開講します。

授業科目の概要

教養教育科目

商学部共通

外国語科目

①第1外国語【英語】

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としており、コア(必修科目)とエレクトィブ(選択科目)からなっています。

コアにおいては、読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく修得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○第1外国語(英語)は、希望したコースに基づいてクラス分けが行われます。

クラス分けの結果とコースは最初の授業までに発表します。

○科目名のアルファベットは以下の内容を表しています。

a - Listening ComprehensionとOral Communication

b - Reading

c - Writing

○英語は必修科目であり、1年次では英語 Ia・IIa・Ib・IIb 4単位、2年次では英語 Ic・IIc 2単位、合計6単位を修得する必要があります。2013年度以降入学生は英語 Ic・IIcは1年次で開講されます。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

②第2外国語【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】

第2外国語は、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、積極的に第2外国語の学習に取り組んでください。選択必修科目ですので、1年次にドイツ語・中国語・フランス語・韓国語の中から1言語を選択して履修することになります。また、2年次以上ではエレクトィブ(選択科目)を履修することができます。

なお、第2外国語は未修外国語ですので、コアの授業では基礎的な部分の学習に止まらざるを得ません。

当該言語の能力をより高めるために、2年次以降にエレクトィブ(選択科目)を履修することが大いに望まれます。

○第2外国語はコア(必修科目)の2単位を修得する必要があります。

○第2外国語のクラスは希望した言語に基づいて編成します。クラス編成上、第1希望にそえない場合があります。DA・DBクラスはドイツ語、CA～CFクラスは中国語、FA・FBクラスはフランス語、KA・KBクラスは韓国語となっています。

※なお、決定された第2外国語は、変更することができません。

③文化事情【ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情】

第2外国語として学習する、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語、これらの言語の背景にある文化や風俗、人々の生活などについて学ぶ科目です。選択必修科目ですので、ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情の中から1科目を選択して履修してください。半期科目のため、春学期或いは秋学期のいずれかで受講することになります。

なお、できる限り第2外国語で選択した言語の文化事情を履修するようにしてください(例：ドイツ語を選択した場合はドイツ文化事情を履修)。

○学籍番号が奇数の人は春学期に、偶数の人は秋学期に履修してください。

④エレクトィブ(選択外国語科目)

エレクトィブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器などを使用した科目も開講しています。

授業科目の概要

教養教育科目

商学部共通

健康総合科学科目

健康総合科学では各種スポーツの「実践」と「理論」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。スポーツ科学では「実践」により皆さんができるだけスポーツに親しむことを望んでおり、健康総合論では「理論」によって健康に関する諸問題を医学面、あるいは運動面から総合的にアプローチしていきます。

○スポーツ科学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので、2単位を修得しなければいけません。

○第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書などを提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

○更衣は指定場所で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に使ってみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.34参照)。

授業科目の概要

専門教育科目

商学科2013年度以降入学生

(1) 専門教育科目を学ぶにあたり

商学部の専門教育科目は、基礎科目、基幹科目、応用科目、演習科目に分かれています。

商学部では、モノの流れを中心に学ぶ「流通・マーケティングコース(DMコース)」と、おカネの流れを中心に学ぶ「会計・金融コース(AFコース)」、情報の流れを中心に学ぶ「ビジネス情報コース(BIコース)」の3つのコースがあります。学生諸君は、2年次、3年次の春学期の登録の際にいずれかのコースを選択し登録しなければなりません。

(2) 基礎科目

基礎科目とは、すべての学生が必ず履修しなければならない必修科目(流通論A・B、経済原論A・B、会計学A・B、情報リテラシーA・B)、および自動登録選択科目(商学入門、経済学A・B)のことです。これらの科目は、上級科目(基幹科目、応用科目、演習科目)の内容を理解するために欠かすことができない最も基礎的な知識や技能を修得するためのものです。

必修科目の16単位については、すべての学生が必ず修得しなければなりません。

(3) 基幹科目

基幹科目とは、より細分化された各専門領域(流通、マーケティング、国際ビジネス、会計、金融、情報など)における基本的な知識や技能を身につけるための科目であり、応用科目と演習科目の内容を理解するために必要なものです。

単位の修得についての規定は次のとおりです。

- ・これらの中から16単位以上を必ず修得すること。
- ・情報関連科目(情報社会論、情報倫理、eコマース論、流通情報システム論、データ分析Ⅰ、データ分析Ⅱ)の中から4単位以上を必ず修得すること。
- ・自分自身が選択したコースの特定科目の中から8単位以上を必ず修得すること(下記「(8)コース選択」を参照のこと)。

(4) 応用科目

応用科目とは、専門教育科目のうち、より高度で専門的な内容を学ぶための科目です。応用科目については、自分自身が選択したコースによって履修すべき科目が異なるので注意が必要です。

I類には、流通、マーケティング、国際ビジネス関連の科目が配当されており、「流通・マーケティングコース(DMコース)」を選択する学生は、この中から12単位以上を必ず修得してください。

II類には、会計と金融に関する科目が配当されており、「会計・金融コース(AFコース)」を選択する学生は、この中から12単位以上を必ず修得してください。

III類には、情報関連の科目が配当されており、「ビジネス情報コース(BIコース)」を選択する学生は、この中から12単位以上を必ず修得してください。

IV類には、最近のビジネス関連のさまざまなトピックをテーマとする商学特論Ⅰ～Ⅹ、企業実習、資格取得講座といった実践的な科目が配当されていますので、積極的に履修してください。IV類の科目には、「～単位以上修得」という規定はありません。

V類には、外国語関係の科目が配当されています。将来グローバルな舞台で活躍するためには、語学の習得は欠かせません。これらの中から4単位以上を必ず修得してください。

VI類には、商学部、経営学部、経済学部の連携科目が配当されています。それぞれの学部の特色ある教育内容が反映された科目を、受講することができます。VI類の科目には、「～単位以上修得」という規定はありません。

VII類は、商学部、経営学部、経済学部に通じた科目群です。3学部に通じたテーマである「地域との連携」に関連する科目群と、ビジネスについて学ぶに当たって関連する法律の科目群に分けられます。これらの中から4単位以上を必ず修得してください。

(5) 演習科目

演習(ゼミナール)は、専門科目の講義と異なり、少人数教育を重視し、学生諸君が特定の専門分野について自主的に研究することを目的とした科目です。また、応用商学Ⅰ～Ⅵが設定されていますが、これは、ケース・スタディを中心とした実習形式の科目です。演習と並行して履修することで、実践を通じて理論をより深く理解することができるでしょう。

これらの中から10単位以上を必ず修得してください。

授業科目の概要

専門教育科目

商学科2013年度以降入学生

(6) 上級簿記A・Bについて

「上級簿記A・B」は、税理士試験簿記論および日商簿記検定1級商業簿記受験のための基礎力の養成を目的としています。このクラスは、週2コマ開講されるので、履修希望者は、履修登録に際し2コマを同時履修しなければなりません。履修した学生諸君は、「上級簿記A」(春学期)4単位および「上級簿記B」(秋学期)4単位、通年履修で計8単位の取得が可能となります(原則として「上級簿記B」(秋学期)は「上級簿記A」(春学期)の履修者を対象とします)。また、このクラスは、日商簿記検定2級あるいは全商簿記検定1級をすでに合格している学生が対象であり、人数制限は20名程度となっています。履修希望者は、第1回目の講義に必ず出席してください。なお、日商簿記検定2級(又は全商簿記検定1級)にすでに合格している学生は、1年次から履修することができます。

(7) コース制の意義

商学部で学ぶことができる専門領域は、流通・マーケティング関連、会計・金融関連、情報関連に大きく分けることができます。3つの領域の中でどれを中心に勉強するかについては、自分自身で決めなければなりません。しかし、羅針盤のない航海では、目的地に到達できません。

そこで、商学部では、上記3つの専門領域に対応して、「流通・マーケティングコース(DMコース)」、「会計・金融コース(AFコース)」、「ビジネス情報コース(BIコース)」という3つのコースを設置し、基幹科目と応用科目の一部をコースごとにグループ化してあります。「流通・マーケティングコース」では経済社会における「モノの流れ」という側面について、「会計・金融コース」では「おカネの流れ」という側面について、「ビジネス情報コース」では「ビジネスと情報との関わり」について、それぞれ深く学習します。

学生諸君が将来活躍するフィールドが異なってきますので、自らの将来設計を考慮していずれかのコースを選択してください。

(8) コース選択

学生諸君は、3つのコースのうち、いずれかに必ず属さなければなりません。どのコースを選択するかによって、修得しなければならない科目が異なってきますので、十分に注意してください。

各コースにおいて履修しなければならない科目は以下のようになります。

① 流通・マーケティングコース

専門教育科目

・ 基幹科目

マーケティング論A・B、小売経営論A・B、国際ビジネス論A・B、経営学A・B、eコマース論、流通情報システム論の中から8単位以上を必ず修得してください。

・ 応用科目

I類の中から12単位以上を必ず修得してください。このコースに属する学生には、12単位にとどまることなく、I類の科目を可能な限り多く履修することをすすめます。もちろん、II類やIII類の科目に関心をもった学生は、積極的にそれらを履修してください。

② 会計・金融コース

専門教育科目

・ 基幹科目

経営学A・B、簿記IA・B、金融論A・B、財務会計論A・B、保険論A・Bの中から8単位以上を必ず修得してください。

・ 応用科目

II類の中から12単位以上を必ず修得してください。このコースに属する学生には、12単位にとどまることなく、II類の科目を可能な限り多く履修することをすすめます。もちろん、I類やIII類の科目に関心をもった学生は、積極的にそれらを履修してください。

③ ビジネス情報コース

専門教育科目

・ 基幹科目

マーケティング論A・B、簿記IA・B、情報社会論、情報倫理、eコマース論、流通情報システム論、データ分析I・IIの中から8単位以上を必ず修得してください。

・ 応用科目

III類の中から12単位以上を必ず修得してください。このコースに属する学生には、12単位にとどまることなく、III類の科目を可能な限り多く履修することをすすめます。もちろん、I類やII類の科目に関心をもった学生は、積極的にそれらを履修してください。

(9) コースの登録

2年次春学期の履修登録の際に、コースの登録を行います。

なお、2年次春学期に登録したコースは、2年次秋学期履修登録時、3年次春学期履修登録時に変更することができます。3年次春学期履修登録時以降はコース変更することができません。

授業科目の概要

専門教育科目

商学科2013年度以降入学生

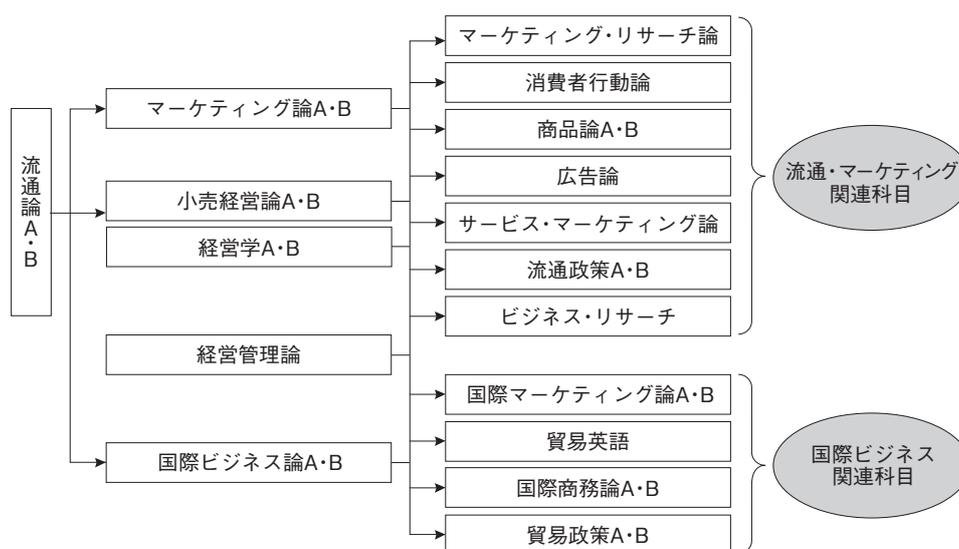
(10) 流通・マーケティングコース

流通・マーケティングという学問分野は、商品やサービスの売買にまつわる経済現象を取り扱います。さらに、流通・マーケティングには①流通と②マーケティングという2種類の問題領域が含まれます。①流通は、経済社会全体を理解する立場で、生産された商品・サービスをどのような取引の過程を経て消費者が入手できるようになるのか、その過程においてどのような活動が行われているのかという問題です。②マーケティングは、企業を経営する立場で、どのようにすればうまく製品・サービスが売れていくのか、売るための仕組みをどのように作ればいいのかという問題です。流通・マーケティングコースは、これらの2つの問題に関連する学問を中心に学習していくコースです。

例えば、ブルーレイ・レコーダーという製品は、製造されてからわれわれ消費者が入手するまでには、ソニーのような家電品製造業者、販社と呼ばれる卸売業者、さらに家電品小売業者といういくつかの当事者を経ています。その過程には、契約の締結、在庫、配送、データ処理など様々な活動が含まれます。①流通について経済社会全体の視点で仕組みを理解するためには、当事者の役割のあり方を検討することなどがが必要です。②マーケティングについては、ブルーレイ・レコーダーを製造するソニーの立場に立てば、どのような仕組みを作り上げれば消費者に買ってもらえるかという問題に関心が集まります。ソニーは、消費者のニーズを把握するために調査すること、ニーズに合わせた商品を企画すること、製品の良さを広告活動でもって伝えていくこと、消費者に製品を届けるため卸売業者や小売業者の協力を得ることなど、様々な活動を組み合わせて一つの仕組みを作り上げているのです。これらの仕組みに関する理論を学ぶことができるのが流通・マーケティング関連科目です。また、ブルーレイ・レコーダーなどの製品は海外で製造され、日本を含め複数の国で普及しています。つまり、国境を越えて、流通活動が進行しているのです。そのため、国際ビジネスに関連する科目も併せて学ぶ必要があります。

流通・マーケティングコースの科目履修とキャリア・デザインとの結びつきには大きく分けて3とおりあります。1つ目は、流通業(小売業、卸売業など)や製造業におけるマーケティング関連職(商品企画、営業、広報など)を目指す場合です。流通関連、マーケティング関連科目を基礎、基本から、応用まで専門的に履修することが望まれます。2つ目は、商社、貿易会社などへの就職を目指す場合です。流通関連、マーケティング関連の基礎、基本に加え、国際ビジネス関連、英語関連の応用科目を履修する必要があります。3つ目はサービス業(旅行、金融、情報など)への就職を目指す場合です。流通関連、マーケティング関連科目を基礎、基本から、応用まで履修するとともに、業種によっては、他コース・他学科の金融関連や情報関連の応用科目を履修する必要があります。

このコースでは、1年次に流通論A・B(商学部必修)を必修としています。さらに、2年次には、マーケティング論A・B、小売経営論A・B、国際ビジネス論A・Bを選択することができます。キャリア・デザインに必要な基礎固めをこの段階で行います。



授業科目の概要

専門教育科目

商学科2013年度以降入学生

(11)会計・金融コース

会計と金融はともにおカネの流れとそのリスクを研究対象とします。

会計は、企業などの経済主体の経済活動を会計情報に変換し、利害関係者に伝達する社会システムです。投資者、株主および債権者といった企業の利害関係者は、会計というシステムないし行為を通じて生み出される情報に基づいてリスクを判断し、自らの行動に関する意思決定をします。また、企業内部の経営者や管理者などもこれらの情報に基づいて、経営戦略を立案したり、資金調達を行ったりします。一方、金融は、おカネが十分にあるところから不足しているところにおカネを融通(ファイナンス)することです。例えば、企業は、資金を調達するときに株式を発行して直接市場から資金を調達するか(直接金融)、あるいは、銀行が預金として集めた資金からの借り入れによるか(間接金融)という選択を行います。その際に、会計から生み出される情報が必要不可欠になります。こうしたことから金融と会計は密接に関連しています。

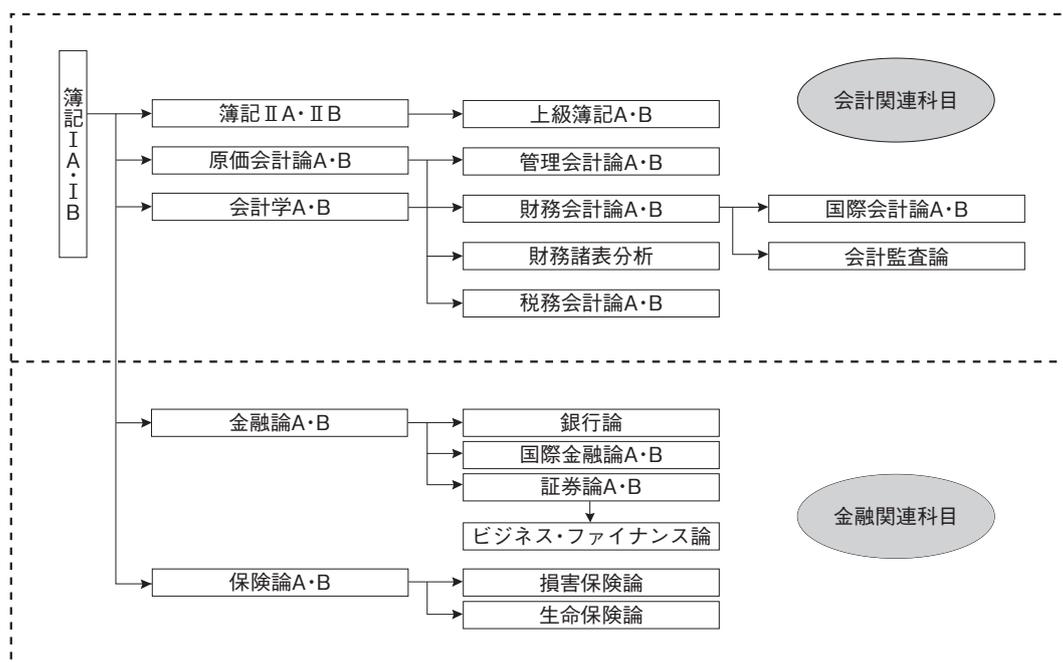
例えばソニーでは、ソニーグループを形成し自社製品の製造・販売などを行っていますが、最近ではその中に銀行、生命保険会社および損害保険会社などの金融機関が含まれています。企業が持続的に発展していくためには、資金が不足しないように、また余っているときはそれを使って利益を稼働できるように、企業グループとしての戦略を立てる必要があるわけです。その際に、会計情報によって自社の資金が不足しているか、余っているかを判断し、銀行から資金調達をするかそれとも投資をして利益を稼働するかの選択が行われます。ソニーグループのように、一般企業による金融機関を含めたグループ形成の動向はトヨタなどにもみられます。従来から、企業と金融機関の関係は「メインバンク制」と呼ばれるほど、密接な関係にあります。間接金融から直接金融へと変化しつつある経済社会においては、企業は、会計と金融の双方の役割を重視するようになってきました。

このような観点から、商学部では、時代の要請に見合った人材を養成するために会計・金融コースを設定し、学生諸君が社会で活躍できる基礎を形成します。

このような目的を達成するために、会計・金融コースでの科目の履修については、3つの方法を用意しています。ひとつは、会計関連科目を集中的に修得し、公認会計士や税理士といった会計プロフェッションや企業におけるアカウンティング・エキスパートとなるような知識を獲得する方法です。つぎは、金融関連科目を集中的に修得し、銀行、信用金庫、証券会社、投資顧問会社および保険会社といった金融機関での金融スペシャリストを目指す方法です。3つ目の方法は、会計と金融の双方の関連科目のうち、初級レベルおよび中級レベルの科目を中心に修得し、いわば会計と金融のゼネラリストとしてメーカー、商社などへの就職を目指す方法です。

このコースでは、1年次から会計学の入門として位置づけられる簿記ⅠA・ⅠBを修得し、2年次に会計学A・B(商学部必修)、金融論A・B、保険論A・Bを修得します。この段階で会計と金融のアウトラインを理解することができます。

会計と金融の各関連科目の位置づけは図のようになります。



授業科目の概要

専門教育科目

商学科2013年度以降入学生

(12)ビジネス情報コース

ICT(情報通信技術)の発達によって、ビジネスを取り巻く環境は大きく変化しています。このため、現代のビジネス社会を生き抜いていくためには、情報に関する幅広い知識と、その知識を実際のビジネスで適用する能力が必要となります。ビジネス情報コースでは「ビジネス」と「情報」の領域を組み合わせ、ビジネスの情報化に対応した内容を研究するカリキュラム編成を行っています。具体的には、流通・マーケティング、会計・金融、経済・経営などビジネスの基礎的な理解の上に、情報に関する専門的な知識や技能を育成することで、多様化するビジネス社会のニーズに応えることを目標としています。「ITに詳しいビジネスヒューマンの育成&ビジネスに詳しいIT技術者の育成」が本コースの特色といえます。

ビジネス情報コースでの専門科目の履修の流れとしては、まず1年次において情報リテラシーの能力を身につけ、2年次以降で情報システムの理論に加え、コンピュータによるデータの分析手法、プログラミング、マルチメディア処理などを学びます。さらに、社会と情報技術との繋がりや、情報技術のビジネスへの活用などについても学んでいきます。

ビジネス情報コースでは、さらに2つの履修モデルを用意しています。それぞれの目標と履修推奨科目は、次のとおりです。

① 情報活用モデル

[目標]企業などでパソコンやインターネットを活用できる人材

[履修推奨科目]

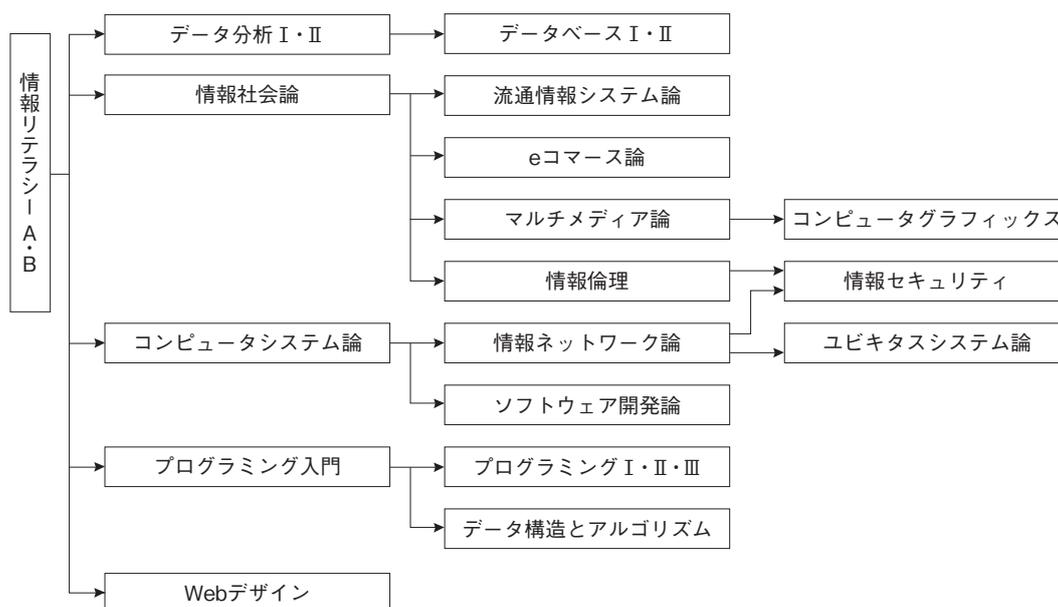
会計・金融関連科目、流通・マーケティング関連科目に加え、データ分析、データベース、情報社会論、eコマース論、流通情報システム論、情報倫理、マルチメディア論、情報セキュリティ、Webデザインなど

② 情報構築・企画モデル

[目標]情報システムの開発・企画・プロデュースができる人材

[履修推奨科目]

コンピュータシステム論、情報ネットワーク論、ユビキタスシステム論、ソフトウェア開発論、プログラミング、データ構造とアルゴリズム、情報社会論、eコマース論、流通情報システム論、マルチメディア論、コンピュータグラフィックス、Webデザインなど



授業科目の概要

専門教育科目

ビジネス情報学科

(1) 専門教育科目を学ぶにあたり

ビジネス情報学科の専門教育科目は、第一部基礎科目、第二部基本科目、第三部応用科目、第四部演習科目に分かれています。

(2) 基礎科目

基礎科目は商学部学生として身につけるべき基礎知識を学ぶもので、商学部の共通基盤となる科目であり、基礎科目1および基礎科目2より成っています。基礎科目1は両学科共通の必修科目で商学入門A・B、流通論A・B、経済原論A・B、会計学A・Bが1、2年次に配当されています(16単位修得)。

基礎科目2は情報処理概論、簿記IA・IB、マーケティング論A・B、金融論A・Bが1、2年次に配当されています(情報処理概論を含め、8単位以上修得)。

(3) 基本科目

基本科目とは、ビジネス情報学科で学ぶ学生諸君を対象としたビジネス情報学科独自の科目を意味します。将来履修する専門科目の基本となるもので、ビジネス情報論A・B、経済史A・B、経済政策A・Bおよび産業政策の計7科目です(ビジネス情報論Aを含め、8単位以上修得)。

(4) 応用科目

応用科目1とは、ビジネス情報学科における専門科目で、基礎科目および基本科目の上級科目としてさまざまな分野の専門科目が設定されており、専門的な知識を深めることを目的としています。また、将来国際人として活躍するためには、語学力の習得は欠かすことができません。ここでは、単なる英語学習にとどまらず、英語による専門分野の内容が理解できる能力の養成を目的とした外国書講読A・Bも配当されています。

応用科目2とは、ビジネス情報学科の専門科目である経営者講座、会社法、税法のほか、商学科の専門科目も履修できるよう設定されているもので、より幅広い専門知識の習得を目的としています。

(5) 演習科目

演習(ゼミナール)は、専門科目の講義と異なり、少人数教育を重視し、学生諸君が特定の専門分野について自主的に研究することを目的とした科目です。2年次秋学期から始まる演習Iを皮切りに、3年次では演習II、4年次では演習IIIおよび卒業論文が配当されています。

(6) モデル制とは

商学部で学ぶことができる専門領域は、多岐にわたっています。そのなかで、どのような分野を重点的に勉強するかについて、諸君自身が決めなければなりません。羅針盤のない航海は、目的地に到達できません。多くの専門科目のなかから、自分が関心をもつ分野の科目を系統的に学ぶことが大切です。

こうした観点からビジネス情報学科では、学生諸君の知的ニーズの多様化に対応するため、また学生諸君の科目履修の自主性を尊重するため、モデル制を採用しています。ここでは、専門領域ごとに、経済・ビジネスモデル、ビジネス・ファイナンスモデル、情報システムモデルの3つの履修モデルを提示し、それぞれのモデルごとに履修すべき専門科目を示しています。この3つのモデルの中から、自分の目的に合ったモデルを参考にして、専門科目を重点的に履修してください。

授業科目の概要

専門教育科目

ビジネス情報学科

(7)経済・ビジネスモデル

目 標：経済・ビジネス関連科目を中心に履修するモデル。企業のビジネス活動の基本は経済にあり、それは国内外の経済・社会情勢の変化や政策などによって大きく変わる。このモデルでは実践的なジェネラリストとしてのビジネスパーソンを育成する。

就職先：流通、情報サービス、金融などの一般企業、地方・国家公務員など
高校教員、国税専門官

教養科目	36単位
基礎科目1(商学入門A・B、経済原論A・B、流通論A・B、会計学A・B)	16単位
基礎科目2(情報処理概論、金融論A・Bに加え、簿記IA・Bなど他の科目)	12単位
基本科目(ビジネス情報論A・B、経済史A・Bに加え、経済政策A・Bなど他の科目)	12単位
応用科目1(国際経済論A・B、日本経済論A・B、マクロ経済学、ミクロ経済学、 経済地理A・B、財政学A・B、金融政策、ビジネス統計学A・B、 情報処理IA・IB、ビジネス特論II(グローバルビジネス論)、外国書講読A・B)	36単位
応用科目2(経営者講座など)	2単位
演習科目(演習I、演習II、演習III、卒業論文)	14単位
	128単位

(8)ビジネス・ファイナンスモデル

目 標：ファイナンス関連科目を中心に履修するモデル。併設学科開講のファイナンス関連科目を併せて履修。
新しい金融システムを理解し、ビジネス情報の分析手法をもとに金融面のソリューションの提案できる人材の育成。

就職先：銀行、証券、信金、保険など金融関連企業
財務、投資アドバイザー、証券アナリストなど

教養科目	38単位
基礎科目1(商学入門A・B、経済原論A・B、流通論A・B、会計学A・B)	16単位
基礎科目2(情報処理概論、簿記IA・B、金融論A・B)	12単位
基本科目(ビジネス情報論A・B、経済政策A・B、保険論A・B)	12単位
応用科目1(金融政策、国際金融論A・B、ビジネス・ファイナンス論、ビジネス統計学A・B、 ビジネス・経済シミュレーションA・B、ビジネス特論II(グローバルビジネス論)、 外国書講読A・B、銀行論、証券論A・B、生命保険論、損害保険論)	32単位
応用科目2(税法)	2単位
演習科目(応用商学I(金融)、演習I、演習II、演習III、卒業論文)	16単位
	128単位

(9)情報システムモデル

目 標：情報関連科目を中心に履修するモデル
多様化・高速化する情報化社会に対する情報処理の基礎知識と技法を修得し、情報システムを構築しうる創造能力と問題解決能力を有する人材の育成。

就職先：ソフトウェア開発、システム設計、ネットワーク運営など情報関連企業
システム・アドミニストレータ、情報処理技能者、データベース管理など

教養科目	36単位
基礎科目1(商学入門A・B、経済原論A・B、流通論A・B、会計学A・B)	16単位
基礎科目2(情報処理概論、簿記IA・IB、マーケティング論A・B、金融論A・B)	16単位
基本科目(ビジネス情報論A・Bに加え、経済政策A・Bなど他の科目)	8単位
応用科目1(ビジネス統計学A・B、情報システム論、情報ネットワーク論、 ビジネス・経済シミュレーションA・B、情報処理IA・IB、 情報処理IIA、IIB、プログラミングIA・IB、 プログラミングIIA・IIB、ビジネス特論I、外国書講読A・B)	34単位
応用科目2(経営者講座など)	4単位
演習科目(演習I、演習II、演習III、卒業論文)	14単位
	128単位